

安全な日本世界が信頼

バングラデシュ出身 帰化男性語る



参院選

2025

「日本は安全で安心。こんなに住みやすい国はない」。北区で飲食店を営むバングラデシュ出身のモハメド努羅留さん(43)は、きっぱりと話し

20日に投開票される参院選では、外国人を巡る政策も争点として急浮上している。外国人労働者の存在が増す一方で、トラブールや摩擦も目立つようになり、参院選で規制強化を公約に掲げる党も出てくる。日本に帰化し、有権者となった外国出身者に、現状や政治に求めることを尋ねてみた。(安田信介)

今回の参院選では「子育て支援に熱心な党を支持したい」と語るモハメド努羅留さん

少子化 子育て支援に力を

た。

首都ダッカ郊外で育ち、来日前から日本製商品の高い品質などから「日本には良いイメージしなかった」という。2001年に来日し、会社勤務などを経て約15年前に日本国籍を取得。10年前に起業し、妻との間に2人の息子がいる。「子どもたちに必要な物を買う余裕もある。今が一番ハッピー」と笑顔を見せる。

ただ、少子化が進む日本の将来や、日本の国際競争力が低下していることには危機感を抱く。「政府は結婚や出産に手厚く助成すべきだ。市場戦略を主導して定めることも重要だ」と訴える。参院選では、「税金の無駄遣いを減らし、子育て支援を強化できる政党を支持したい」と考えている。

一方、今回選で外国人政策

を巡って排外主義的な主張も見られている。こうした風潮に「憲法で差別は禁じられている。マイナスにしかならない」と批判し、「日本はどの国からも信頼されているので、他国と協力しながら世界でリーダーシップを発揮してほしい」と期待する。

出入国在留管理庁によると、昨年末の在留外国人数は過去最多の376万人で、前年末(341万人)から1割も増加した。国・地域別では1位が中国(87万人)、2位がベトナム(63万人)、3位が韓国(40万人)となっている。

外国人への日本語教育などを支援するNPO法人「多文化共生センター東京」の石塚達郎代表理事は「在留外国人は労働力としてだけでなく、消費人口という面でも重要性が増している」と指摘。その上で、「外国人と一緒に日本をつくるのが大事だ。参院選でも冷静な議論や事実に基づいた意見を求めたい」と、政党や候補者に期待した。